

63 私が進もうかよそうかと考えて、ともかくも明るく日まで待とうと決心したのは土曜の晩でした。
★「進む」とは？ ★「土曜日の晩」…「日曜日だ」とどうしていいの？

63 その晩に限って、偶然西枕に床を敷いたのも、何かの因縁かもしれません。私は枕元から吹き込む寒い風でふと目を覚ましたのです。
「西枕」には何か意味があるのか？

63 見ると、いつも立って切つてあるKと私の部屋との仕切りの襖が、この間の晩と同じくらい開いています。
★Kはなぜ襖を開けておいたのか？

63 私は暗示を受けた人のように、床の上に肘をついて起き上がりながら、きっとKの部屋をのぞきました。
「きっと」の意味は？ 動作状態が瞬間的である様

63 そうしてK自身は向こう向きに突っ伏しているのです。
「突っ伏す」…「急にうつぶせになる」…？

64 私はすぐ起き上がって、敷居際まで行きました。そこから彼の部屋の様子を、暗いランプの光で見回してみました。
なぜKを見ずに部屋の様子から見た？ 部屋全体を見たからKの様子も見た。

65 それが疾風のごとく私を通過したあとで、私はまたあぁしまったと思いました。
★「それ」とは？

65 もう取り返しがつかないという黒い光が、私の未来を貫いて、一瞬間に私の前に横たわる全生涯をものすごく照らしました。

★何が取り返しがつかない？ ★どうして取り返しがつかない？
★「黒」とはどんなイメージ？ ★見えた「全生涯」とはどのようなものか？

66 私は私にとってどんなにつらい文句がその中に書き連ねてあるだろうと予期したのです。
★「私にとって」「つらい文句」とはどのようなものか？

66 私はちよつと目を通しただけで、まず助かったと思いました。（もとより世間体の上だけで助かったのですが、その世間体がこの場合、私にとっては非常な重大事件に見えたのです。）

★「世間体の上だけで助かった」とは？ ★私の言う「世間体」とは何か？

67 自分は薄志弱行でどうてい行く先の望みがないから、自殺するというだけなのです。
★「薄志弱行」とはどんな志が薄くてどんな行動が出来ない？ ★「行く先の望み」とは何？

67 必要なことはみんな一口ずつ書いてある中にお嬢さんの名前だけはどこにも見えません。私はしまいまで読んで、すぐKがわざと回避したのだということに気がつきました。

★なぜお嬢さんの名前だけ無かったのか？ ★なぜわざと回避したのか？

67 最後に墨の余りで書き添えたらしく見える、もつと早く死ぬべきだのになぜ今まで生きていたのだろうという意味の文句でした。

★「書き添え」とはどういうときに書く？ Kの本音？ Kの嫌がらせ？

★「もつと早く」とはいつより早く？

68 私はわざとそれをみんなの目につくように、元のとおり机の上に置きました。
★どうして目につくように置いたのか？

68 そうして振り返って、襖にほとばしっている血潮を初めて見たのです。

Kは先生の部屋の方を見ながら死んだってことですか？
Kの部屋に入つた時は血潮は見えなかったの？

69 朝になつて奥さんにKの自殺を告げた
何ですぐに知らせなかったの？